

■ 2025年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

医学部

科目

数学

総 括

試験時間	100 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150 点	分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

近年Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に難しくなる傾向があり、今年もそうであったといえる。Ⅳは考えにくいので、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを確実に得点した上で、Ⅳをどの程度得点できるかが合否の分かれ目となる。

〈特記事項・トピックス〉

- ・ [Ⅰ] の小問集合が5小問となった。これまでは3小問の年が多く、最大でも4小問であった。
- ・ 論述式の答案を作成する記述式の問題が4年ぶりに出題された。大問2問に記述式の小問があるのは2013年以来である。
- ・ 確率分布に関する小問が3問出題された。分散に関する出題は1994年以来である。
- ・ 昨年に続いて、確率と漸化式の融合題が出題された。
- ・ 昨年に続いて、空間座標の問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

近年の易化傾向から難化に転じる気配が感じられるので、2020年入試以前のレベルを想定して準備しておきたい。題意がとりにくい問題や考えにくい問題も少なくないので、どのような出題でも困らないように日頃から多方面の問題に取り組む。時間に対して分量が多いので、計算力を鍛え、最後まで計算を実行する習慣を身につけておくべきである。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ (1)	空所補充	B	正規分布	与えられた正規分布表の値をもとに、標本における比率と値を求める。	易
Ⅰ (2)	空所補充	B	確率密度関数	与えられた確率密度関数の係数を定める。	易
Ⅰ (3)	空所補充	Ⅲ	区分求積法	区分求積法を用いて数列の和の極限を求める。	易
Ⅰ (4)	空所補充	C	複素数平面	複素数平面上で3次方程式の3解を頂点とする三角形の面積を求める。	易
Ⅰ (5)	記述	I	有理数と無理数	2の平方根が無理数であることを用いて、等式を満たす整数の組を求める。	易
Ⅱ	空所補充	A B	確率 漸化式、平均と分散	1つの袋に入っている玉に対する操作を繰り返したときの確率について、漸化式を作り、それを解く。また、その操作を元にしたゲームの得点に関する確率変数の平均(期待値)と分散を求める。	標準
Ⅲ	空所補充 記述	Ⅱ B Ⅲ	恒等式、 定積分で表された関数、 定積分と微分、 関数の増減と極値 数学的帰納法 関数の合成、 定積分の計算、最大値	恒等式に関する定理の証明を行い、その結果を用いて、整関数の次数や恒等式の係数を求める。さらに、その整関数の極大値について考察し、定積分の値とその最大値を求める。	標準
Ⅳ	空所補充	Ⅱ B	平面座標 空間座標	正方形の内部における光の反射の問題を考察し、その結果を利用して、立方体の内部における光の反射の問題を考察する。対称移動を用いると考えやすい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。